

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふつうに暮らせるしあわせ」の理念に基づき、ご利用者が穏やかな暮らしを実現できるように日々取り組みを行っている。	事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるように職員アンケートを基にホームの目標や個人の目標も設定し、職員と一緒に達成度の振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防で地域のクリーン作戦、ふれあいコンサート、小学校の交流など、ほとんどが中止になっているが、地域の方とあいさつ程度ではあるが日常的な交流は続いている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、小・中学生の体験学習を受け入れたり、オカリナや合唱のボランティアの方に来て頂いたり、町内のクリーン活動にもご利用者と一緒に参加するなど、地域との交流が心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、散歩時のごみ拾いで地域貢献をしようと考えていたが、出来ていないのが現状です。今年度、最低1回は行いたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、資料配布しアンケート回収での会議開催になっている。直接意見を交わすことは出来ないが、広く意見を求めることが出来ている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面での開催もありますが、運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、ご家族、地域包括支援センター職員、民生委員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供の事で分からない事は問い合わせを随時行っている。市からは丁寧な回答を頂いている。事故、苦情報告も適宜行っている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイスを頂いているほか、運営推進会議の議事録を市へ送付したり、地域ケア会議にも参加するなどし、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施して職員に具体的な禁止行為について伝えている。また、身体拘束については解除に向けて話し合いを行っている。2階フロア入り口は階段より転落リスクがあり今年度より施錠しているが、職員と一緒に随時外出している。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、玄関の施錠も夜間のみとし、定期的に身体拘束適正化委員会を開催し検討するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で繰り返し虐待について学ぶ機会を設けている。また、不適切ケアにも目を向け虐待に繋がらないように努めている。年1度、職員に向けたアンケートも実施している。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、職員アンケートも行うなどし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて成年後見制度、生活保護等を利用出来る様に関係部署と連絡を取り繋げることが出来ている。全職員が制度を理解するのは難しく周知のみとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が中心になり説明を行っている。ご利用者ご家族の方には十分に説明を行い同意を頂いたうえで書面に署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケートや運営推進会議の中で意見を求めるほかに要望、苦情があればその都度、職員で検討を行い、対応できるように話し合いを行っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時やホームのご家族会の際に気付いたことや要望は無いか確認しています。また、年に1度はご家族にアンケートを送り、意見・要望の確認を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で運営方針について伝え、意見があれば確認、反映出来る様に努めている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議やユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、定期的に管理者が職員との個人面談の機会を設け、率直な意見を収集できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員は年2回の評価面談と個人目標の設定を管理者と話し合っている。また、就業は労働基準に合ったものになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修の参加は行っていないが、内部研修は資料研修で継続し行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会で防災のオンライン研修等に参加が出来た。全国のグループホーム関係者の話が聞ける機会があった。また、昨年、県の事業で認知症ケアマッピングを受けることが出来た。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で、ご本人と直接、面談を行いアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必要であれば、ご本人の居ないところで改めて話を聞く等の対応を行いご本人が落ちついて生活が始められるように調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談、診療情報提供書、情報提供書で各機関から情報を求め、グループホームでサービス提供が可能か判断している。提供が難しい場合は施設側の判断も踏まえ関係機関に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で必要な調理、掃除等、ご利用者の力を活かして職員と共に支え合いグループホームの生活を賄うことが出来ている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、感染予防の為に窓越しでの面会となっているが、いつでもご家族との面会が出来る様に環境を整えている。グループホームの生活状況など伝え共有できるように話し合っている。	事業所広報を月に1度送付しているほか、ご利用者の生活の様子や身体状態の様子を担当職員がまとめ、毎月お送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、感染予防でご利用者の買い物、外出等を制限している。閉じこもりの無いように人混みを避け、近くの公園へピクニックへ出かけたり、ドライブで海岸、高田公園等いろいろな所へ出かけている。	知人に面会に来て頂いたり、ご家族にもご協力頂き、ご自宅へ出かけたり、お盆にお墓参りに出かける等、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの席は気の合う方同士、話が出る様に配置を行っている。また、非常口から畑を眺めたりソファで自由に過ごすことが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所後もご家族から様子についてグループホームに連絡が入ることがある。必要があれば相談に応じ、必要な関係者に連絡をとる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の方と話をしながら日々の生活や活動を決めている。また、ご本人が困っている様子があれば、ユニット間で共有し良い方向へ向かうように支援している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後にご本人、ご家族に話を聞いて把握に努めている。サービスご利用後の経過はケース記録に記入している。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴やなじみの暮らし方を確認しています。また、年に一度は定期的にあセスメントシートを更新する機会を設け、職員間でも情報が共有できるようにしています。	調査時点でアセスメントシートの作成日が分かりづらい記載方法になっていたため、今後改善されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子やご利用者の方の言葉をケース記録に記入し、職員全体の共有が必要な場合は申し送りや連絡帳に記入し周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でご利用者個別の問題や取り組みなどについて意見を出し合い、ケアプランや個別計画書に取り入れ支援を行っている。	基本的には、ご利用者、ご家族にもサービス担当者会議に出席して頂き、介護計画を作成し、必要があれば月に1度のユニット会議のカンファレンスで介護計画の見直しを行っています。	調査時点で介護計画書の日付の記載方法やモニタリングの実施期間が統一されていませんでしたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や毎月のモニタリングで状態変化があれば記入しユニット会議でケアの仕方に変更があれば検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、職員、ご家族の方と話し合い対応できる場所は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策で買い物、飲食、外部交流等は制限しているが、公園の花、畑の野菜、海、山などにドライブに出かけ楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望がない限り入所前の主治医を継続している。また、施設から医療機関に日頃の生活の様子、健康面等について連携を行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診にも来て頂いているほか、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた書類を渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と医療連携記録にて受診や処方について連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者、計画作成担当者が病院へ施設のご利用者様の情報を伝え、退院時は必要があれば退院カンファレンスの参加、退院サマリーで連携を行い退院後の生活がスムーズに環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が重度化した場合の指針を入居時に説明を行い、対応について説明を行っている。また、その都度、必要に応じ管理者、計画作成担当者より状況に応じて、適切なケアが行えるように話し合いを行っている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に緊急の場合の連絡先、フローが張り出してあり対応が出来る様になっている。また、職員は救命救急の研修を毎年行っている。	毎年1回はAEDの使用や異物除去、心肺蘇生の講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っており、職員は年1回以上消火器訓練に参加することが義務付けられている。災害時の地域との協力体制は構築できていない。	定期的に日中や夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、地域の方にも参加して頂いています。また、例年であれば町内の防災訓練に参加したり、災害時に備えた非常用の食品や水も確保されていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、プライバシーの保護の研修を行っている。個人のプライバシーに触れる機会が多いことを認識して信頼関係を築けるように普段から勤めている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の方より買い物の申し出があれば購入したり、ご利用者の方より意向が確認できた場合、ご家族に伝えお願いするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の日課に合わせて1日の流れはあるが、天候やその日のレクの内容などご利用者のききながら決定している。また、居室で過ごすなどご本人のペースで過ごせるように配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は自分で選んで着替えている。毛染めの希望がある時は職員で行っている。カットは美容院に出かけていたが、感染予防の為、美容師の免許のある同法人の職員が来てカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理作業を行い、味噌汁の味付けや盛り付けなども一緒に準備をしている。今まで職員も一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事をしていたが、感染予防の為、テーブルを別にして食事を摂っている。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、ご利用者の要望に合わせて回転寿司をテイクアウトしたり、バーベキューをしたり、ぼたもち作り等も行っていきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が居ないので、摂取カロリー計算や栄養バランスの管理は出来ていないが、美味しく栄養が摂れるように考えてメニューをたてている。食事はご本人の希望も踏まえ決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に歯磨きを行っている。誤嚥性肺炎リスクがあるご利用者の方には、おやつ後も個別に歯磨き誘導をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方の把握は排便の確認のみだが、個人の状況に応じて定時誘導や排尿チェックを行っている。	入居時には全てのご利用者の排泄パターンを把握し、支援が必要なご利用者には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛け、毎日散歩や体操等を行っているが、排便チェックを行ない出ない時は下剤の服用、調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日1度の入浴になっているが、個人の状況に応じて独りで入ったり、出来ないところを手伝う支援を行っている。	ご利用者の希望に合わせて同性介助での支援を行ったり、入浴を嫌がられるご利用者にもうまくタイミングを見計らい、入浴を楽しんでいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、就寝に入る時間はご本人が決めている。夜間は1時間おきに巡視し、途中覚醒がある時はそっと見守りを行うように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を個人ファイルに入れ管理し、いつでも確認が行えるようにしている。薬の変更で症状が出た場合やつぶしなど形態の変更をする場合は医療機関、薬局に問い合わせを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩が楽しみを楽しみにしている方、歌が好みの方、トランプが好きな方、調理が得意な方等を把握して得意な分野で活動が行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ、午前と午後に散歩に出かける機会を設けている。ご利用者の方の歩行状態等を考慮し出かける人数を決めている。現在、感染症予防でご家族とは受診以外で出かけることは出来なくなっている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩へ出かけたたりもしています。また、新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、季節に合わせたお花見や菊祭り、ぶどう狩りやいちご狩りなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者数人の方が自分でお金を管理して買い物を行っている。現在、外出制限の為、職員に買い物を依頼してお金を支払っている。また、施設で個人のお金を預かり、必要な物を購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた時に、電話を掛けたり、今年度、新型コロナウイルス感染予防で母の日のカーネーションが届いた時に写真に手紙を添えるなど支援を行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁紙をご利用者の方と制作したり、歌の歌詞を貼っている。手すりや椅子など衛生面が保てるように掃除を行っている。	居間と食堂、オープンキッチンがワンフロアとなっています。テレビを囲むようにソファがあり、季節に合わせた飾りをしたり、行事の写真を張るなどして居心地良く過ごせるような配慮がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で会話をしたり、テレビをみたり思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により、テレビをおかれたり、使い慣れた物を持ち込まれている。	居室には、ラジオや時計などの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真を飾ったりし、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の靴の入れ物に名前を入れ、自分で取りだし履けるようにベンチをおく等工夫しています。状況に応じ居室に名前を掲示やトイレが分かるようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				